

# 野外活動のための 安心・安全講座

## 2022 年発行版

# SCOUTING

スカウティング誌掲載記事

[2022年5月号～2023年3月号 抜粋]

### 目次

2022年(令和4年)	5月号	2020(令和2)年度 そなえよつねに共済 事故データ分析 ……02
	7月号	夏季の諸活動への配慮 ……04
	9月号	「そなえよつねに共済」とは? ……05
	11月号	久しぶりの冬場の活動は事故にご注意! ……06
2023年(令和5年)	1月号	油断しないで! 自転車で加害事故を起こしてしまったら… ……07
	3月号	安全な自転車利用のために… ……08





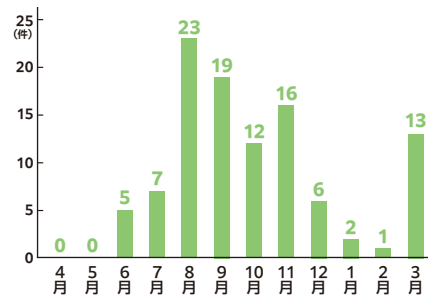
2020年度（令和2年度）

# そなえよつねに共済 事故データ分析

「そなえよつねに共済」で取り扱った事故データ分析の結果がまとまりましたので報告いたします。2012年度から全加盟員が保険（2014年度からは共済）対象となり、ボーイスカウト全体における事故の傾向が把握できるようになりました。事故発生件数（報告件数）は104件で、傷病の延べ数は153件でした。いくつか気づいた点をコメントしましたので、安全管理の参考にいただければ幸いです。

## 発生月別

■ 月別事故発生件数 (n=104)



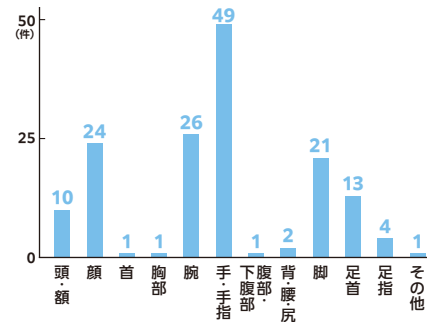
新型コロナウイルス感染症の影響により、事故発生数の低下が顕著になっています。特に4月と5月の件数は0件ですが、これは緊急事態宣言が発出され活動自体が減っていた時期と重なります。

8月に事故件数が多い傾向は、例年と同様です。全事故件数の22.1%を占めますが、昨年度(2019年度:96件)より73件減少しています。活動中に誤って転倒する、薪割り中の切り傷や火起こし中のやけどのほか、ハチやブユ、ダニによる虫刺されによる被害も報告されています。

1月、2月の件数が少ないことも緊急事態宣言の発令と相関が見られます。3月になると緊急事態宣言が解除されて活動が再開されたことに伴い、事故件数も増加しています。

## 部位別（延べ数）

■ 部位別事故発生件数 (n=153)



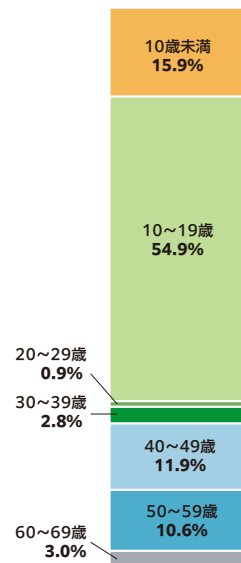
受傷部位の傾向としては、頭部や顔、腕から先、脚下がほとんどを占めています。例年に比べ活動自体が減っていたため受傷数は減少していますが、部位別の割合に大きな違いは認められません。事故による受傷部位の傾向は毎年同様であり、なお一層の注意をしていかなければなりません。

顔の受傷が24件ありますが、このうち顔面（鼻、耳、ほお、あご等）は16件、うち11件は自転車での転倒によるものです。自転車での転倒は一步間違えると周囲を巻き込んだ大きな事故になる可能性があります。安全対策のみならず、自転車の乗り方に関する知識も十分に身につける必要があります。

## 年代別

19歳までの割合が70%にあたる73人でした。20代と30代は少数ですが、40代は12人、50代では11人に事故が発生しています。さらに、60代は3人、70代も1人の事故報告がありました。

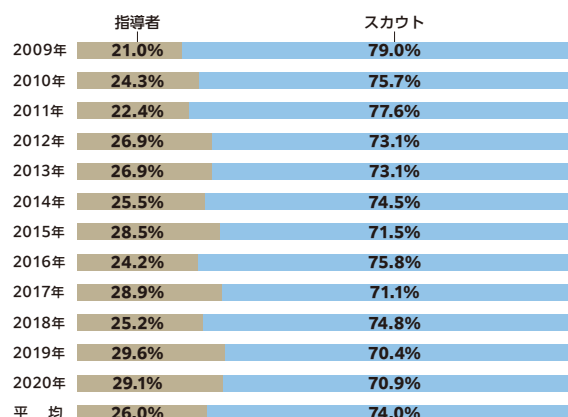
■ 年代別事故発生割合 (n=104)



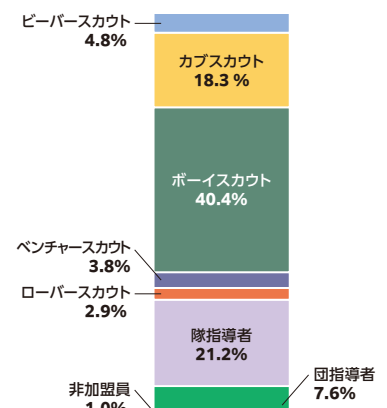
## 部門別

部門別の傾向はビーバースカウトが1.1%減少、カブスカウトが6.2%減少、ボーイスカウトが10.6%増加、ベンチャースカウトが1.3%減少、ローバースカウトが0.8%増加でした。全事故に占めるスカウト全体では70.9%とでした。一方、指導者の割合（非加盟員を除く）は29.1%と昨年とほぼ同様です。

■ 指導者／スカウトの事故発生割合の変化



■ 部門別事故発生割合 (n=104)



## 部門別 上位3傷病

	1位	2位	3位
ビーバースカウト	骨折(3件)	擦り傷/打撲(各1件)	—
カブスカウト	骨折(6件)	切り傷/打撲(各4件)	切り傷(2件)
ボーイスカウト	切り傷(14件)	骨折(11件)	脱臼・捻挫・靭帯損傷(5件)
ベンチャースカウト	切り傷/擦り傷(各2件)	脱臼・捻挫・靭帯損傷/打撲/骨折/歯牙欠損(各1件)	—
ローバースカウト	擦り傷(3件)	やけど/打撲(各1件)	—
指導者	骨折(12件)	脱臼・捻挫・靭帯損傷/擦り傷(各7件)	打撲(6件)

## 活動内容

ビーバースカウト部門での事故1位は「ゲーム」で2件、2位は「ハイキング・ナイトハイク」「移動中」「休憩中・自由時間等」で各1件でした。プログラム中が大多数を占めますが、活動前後や休憩時間も十分な安全対策を講じることが必要です。

カブスカウト部門での事故1位は「休憩中・自由時間等」で5件、2位は「サイクリング」「工作」「移動中」でそれぞれ2件でした。

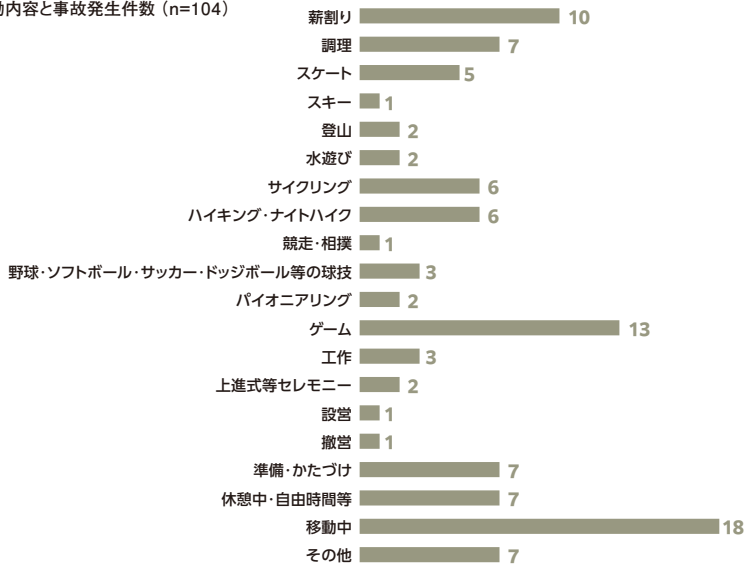
ボーイスカウト部門での事故1位は「移動中」で9

件、2位は「薪割り」で8件でした。移動中は自転車での事故が多く、安全保護具の着用や正しい交通ルールを守ることが重要です。

ベンチャースカウト部門は、「サイクリング」「ハイキング・ナイトハイク」「移動中」で各1件。ローバースカウト部門は、「調理」「登山」「サイクリング」で各1件でした。

指導者の事故1位は「ゲーム」「移動中」でそれぞれ4件、2位は「準備・片づけ」で3件でした。

■ 活動内容と事故発生件数 (n=104)



■ 部門別 最も事故が多かった活動内容

部門	プログラム
ビーバースカウト	ゲーム (2件)
カブスカウト	休憩中・自由時間等 (5件)
ボーイスカウト	移動中 (9件)
ベンチャースカウト	サイクリング/ハイキング・ナイトハイク/移動中 (各1件)
ローバースカウト	調理/登山/サイクリング (各1件)
指導者	ゲーム/移動中 (4件)

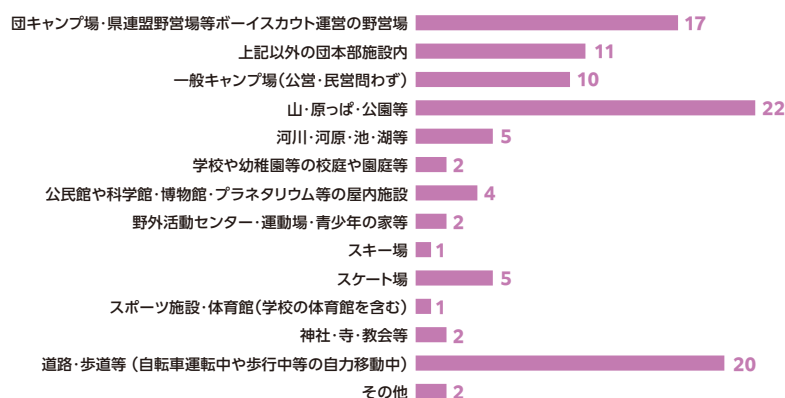
## 発生場所

事故の発生場所として最も多かったのは「山・原っぱ・公園等」でした。ついで「道路・歩道等(自転車運転中や歩行中等の自力移動中)」です。新型コロナウイルス感染症によりキャンプ等の活動が自粛された

ことも影響しています。

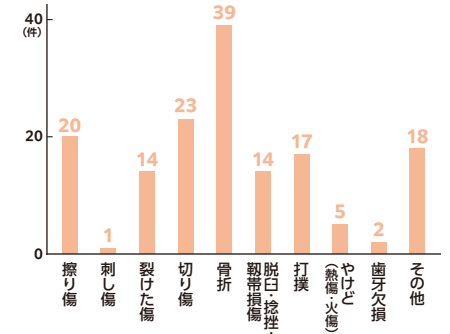
移動中は大きな事故につながる可能性が高いため、今一度安全に対する意識をもつことが重要です。

■ 発生場所と発生件数 (n=104)



## 傷病別(のべ数)

■ 傷病別事故発生件数と事故割合 (n=153)



傷病別では「骨折」の割合が最も多く、前年度より61件減少の39件で第1位でした。第2位は「切り傷」で前年度49件から26件減少の23件でした。第3位の「擦り傷」は昨年度から2件増加の20件でした。これら3傷病で全傷病の53.6%を占めています。

またその中で気になったのがハチやブユ、ダニによる虫刺されです。毎年虫刺されの報告は多いため、服装や害虫対策などは今一度十分に配慮してください。

## まとめ

共済事業に移行して7年目、新型コロナウイルス感染症が流行してから初めての本格的な事故分析になりました。やはり活動が縮小したことから、事故発生件数が大幅に減少しています。裏を返せば、コロナ禍で活動自粛になる前までは、より活発な活動を展開していただいていたということにもなります。

活動を再開していくうえで、気をつけていただきたい内容についてまとめます。

第一に、休憩中の事故発生の防止です。ビーバースカウトやカブスカウトにとって、休憩は自由時間です。大人たちにとっては体を休める時間も、子どもたちにとっては格好の遊ぶ時間になります。安全管理を十分に行い、事故防止に努めてください。

第二に、久しぶりの野外活動によるけがです。新型コロナウイルス感染症により、キャンプなどの活動を自粛されていた方も多いかと思います。こうした状況からキャンプなどを再開すると、思わぬけがや事故、病気になる可能性があります。特にナイフやナタによる手元のけが、熱中症などの危険性について、改めて考え、スカウトに伝えていただきたいと思います。

最後に、指導者の事故についてです。今回の事故分析において、指導者の事故割合は変わりありませんでした。つまり、活動が活発化すると事故件数が増えるということです。ぜひ自身の状態を把握いただき、無理をせずスカウトたちの活動を支援いただければと思います。

## 夏季の諸活動への配慮

いよいよ夏本番！コロナ禍で活動が思うようにできなったり、キャンプは久しぶり、といった団や隊もあるのではないのでしょうか。近年では、ゲリラ豪雨、猛暑といった自然との向き合い方にもさまざまな「そなえ」が必要となっています。また、この2年間で学校の行事や活動も自粛されており、スカウトたちの体力への配慮についても今一度、それぞれの団や隊で確認し合しましょう。

**Q 久々に長期キャンプを行います。指導者として気を付けるポイントを教えてください。**

夏場の活動でも、夜間に屋外で過ごす場合など、気温がどのように変化するかを事前にスカウト自身に調べさせることが大切です。

気温の変化は身体に大きな影響を与えます。一般的に、一日の中の気温差（日較差）や日ご



との気温差が8℃を超えると、体調に変化をきたす人が出始めると言われます。多くの人に経験があると思いますが、真夏の極度に暑い日より、梅雨の終わりや秋口に差し掛かるときに気温差は大きくなりやすいです。また、標高が高く緑に囲まれた場所のほうが朝晩の気温が下がりやすく、さらに差は大きくなります。8℃の差は、半袖シャツが心地よい温度帯から、上着などを羽織りたくなるくらいに下がるほどの変化です。

気象庁 週間予報 <https://www.jma.go.jp/bosai/forecast/>

**Q 長年ボーイ隊指導者をやっています。最新の気象にかかわるトレンドをおしえてください。**

観測・予測や通信技術の発達により、近年、災害を未然に防ぐための新しい情報発信の仕組みが次々と生まれてきています。そのことを学び、安全を確保することも指導者の努めです。今回は、とくに人命にも関わる「線状降水帯予測」「熱中症警戒アラート／暑さ指数」をご紹介します。

### 1 「線状降水帯予測」

発達した積乱雲が列をなし、次から次へと流れ込むことによって大雨になり、災害をもたらすことがあります。その原因である「線状降水帯」の発生を予想する情報が、今年の6月1日から発表されるようになりました。この「線状降水帯予測」という情報は、「関東甲信」「東海」など、全国を11に分けた地域ごとに、その現象が起きるおおよそ半日前に発表されます。深夜の大雨災害が発生しそうな時に避難すべきかどうかの判断に有効だと言われています。

### 2 「熱中症警戒アラート／暑さ指数」

そもそも、人が感じる「暑さ」は気温だけでなく、湿度にも大きく影響されます。それらを総合して熱中症リスクの高まりに注意を呼びかけるのがこの情報です。暑さ指数「33」以上が予想される時に「熱中症警戒アラート」が発表されます。発表されるタイミングは、前日の17時頃ごろと当日朝5時ごろの2回。ただ、この「アラート」が発表されるほどでなくても、暑さ指数28の「嚴重警戒」以上となることが予想される場合は、体温が上がりやすい活動は避けるべきです。

気象庁 熱中症警戒アラート <https://www.jma.go.jp/bosai/information/heat.html>  
環境省 熱中症予防情報サイト <https://www.wbgt.env.go.jp/>

**Q カブ隊指導者です。天気に興味を持ってもらうプログラムを企画しています。スカウトが面白く参加できるようなヒントってありますか？**

「正確な情報を早く掴む」ことよりも「危ないと感じる感覚を養うこと」のほうが、気象災害から身を守るためには大切です。

雨の降り方を、その音で感じる。土や緑の匂いの変化で、雨の訪れや土砂災害の予兆を掴む・自然は、実はいろんな「サイン」を与えてくれています。そのようなサインに気づくことができるようになるのは、野外活動中の災害から身を守るために大切な方法のひとつです。

例えば、乾いた表面の土と、掘り返した湿った土の匂いの差を比べてみるなど、カブスカウトでも楽しめるゲームになると思います。



野外での活動を安全に成し遂げるのは、指導者として基本的な責務です。その真髄は、実は自然と真正面から向き合うことにほかならず、その知識・感覚を養うことで、日々の何気ない風景もぐっと彩りを帯びて感じられるようになるものと思われれます。楽しい夏を迎えるその前に、ぜひ「野外での安全な活動のために大切なこと」に目を向けていただければ幸いです。

**キャンプ中に湿度計を配置するのに適した場所は？**

- ① 日陰で涼しい、食堂フライの下
- ② いつでも確認できるように、集会広場
- ③ 隊長が見るものだから、隊長のテントの中
- ④ 忘れちゃうから、救急箱の中

**正解は…① 日陰で涼しい、食堂フライの中**

多くの人が活動する場所を測ることが基本です。ただ、広い屋外に設置すると測器が直射日光を浴びてしまい、正確に測ることができません。直射日光を避けながら、風通しの良い場所を選ぶことが大切です。

湿度計選びにおすすめなのは、温度計の機能も持ち合わせた「温湿度計」です。これによって、気温はそれほど高くなくてもムシムシと湿度が高くて体感的に暑さを感じる日の温度や湿度を具体的な値として知ることができます。



# 「そなえよつねに共済」とは？

“ボーイスカウト活動”中のケガを補償する仕組みとして、2013年に文部科学省より認可された「そなえよつねに共済」。この制度は、冒険的で魅力的なスカウト活動を確保するために欠かせないものです。

毎年11月には、翌年度の『そなえよつねに共済／賠償責任保険 手引き』が全国に届けられていますので、指導者の方々には既にご承知のとおりです。

今回は、「そなえよつねに共済」についての理解を深めていただくために、特徴や補償内容をあらためてご紹介します。

## 1. 「そなえよつねに共済」の主な特徴

- “ボーイスカウト活動”に基づく傷害事故を総合的に補償します。
- 通常の活動のほか、指導者が同行していない活動（例：班キャンプなど）や、ベンチャーの単独活動時、活動場所への往復時も補償の対象となります。
- 日本国内はもちろん、海外での“ボーイスカウト活動”中の事故も補償の対象です。

## 2. 事故が発生した時の対応について



- ① 事故発生時の状況を詳しく記録しましょう／事故が起こったときは、本人はもちろん、周囲も動揺してしまいがちです。後から事故概要を報告する必要もありますので、写真やメモでできるだけ詳しく記録を残しておくことが大切です。
- ② 日本連盟 安心・安全制度推進室まで電話やメールで速やかに連絡しましょう／TEL: 03-5652-2945 E-mail: kyosai@scout.or.jp
- ③ 「事故発生状況受付簿」が送られるので、事故の報告をしましょう／報告の際、事前に準備した活動計画書及び参加者名簿が必要です。

## 3. 「そなえよつねに共済」の補償内容

補償項目	概要
死亡補償（死亡共済金）	“ボーイスカウト活動”中に、不慮の事故により死亡したとき
後遺障害補償（後遺障害共済金）	“ボーイスカウト活動”中に、不慮の事故により後遺障害を被ったとき
入院補償（入院共済金）	“ボーイスカウト活動”中に、不慮の事故により傷害を被り、入院したとき
手術補償（手術共済金）	“ボーイスカウト活動”中に、不慮の事故により傷害を被り、所定の手術を受けたとき
通院補償（通院共済金）	“ボーイスカウト活動”中に、不慮の事故により傷害を被り、通院または往診を受けたとき

## 4. 補償の対象とならない事例（一部）

- 被共済者の故意、または重大な過失によるもの
- 専用道具を用いた山岳登はん、リュージュ等や航空機の操縦、スカイダイビング、ハングライダー、超軽量動力機やジャイロプレーンの搭乗、その他これらに類する危険な行動を行っている間に生じた事故
- 食中毒（細菌性、アレルギー性等の要因を問わない）

今夏は、ジャンボリーサマーを中心に活発なスカウト活動が行われましたが、久々の野外活動でマダニやハチ等による虫刺されも多く報告されています（8/22現在 全事故報告の25%）。スカウトのための「そなえよつねに共済」を活用しながら、楽しいボーイスカウト活動がより活発なものになるようご支援ください。

「そなえよつねに共済」のご質問やお問い合わせは、下記へお願いします。

✉ e-mail: kyosai@scout.or.jp

共済委員会



# 久しぶりの冬場の活動は事故にご注意！

この冬は、数年ぶりにリアルな活動を計画されている隊も多いのではないのでしょうか。安全で事故のない活動を行えるように、十分な配慮はできていますか。

冬季は、雪に触れる活動を計画している隊があるかもしれません。雪に慣れていない地域の皆さんは特に、日ごろの活動に加えて、冬季特有の配慮が必要です。安全で楽しい活動のため、今一度計画を見直してみましょう。



## Q

**BS隊でスキーに1泊2日で実施します。配慮する点がありますか？**

日ごろの活動と、基本的には安全面への配慮は同じですが、「事故(リスク)を未然に防ぐ」と「事故(リスク)を拡大させない」という両方を、しっかりと計画の段階で検討しておくことが大切です。

慣れない道具を正しく使用しなかったために事故やけがにつながる場合があります。それを防ぐためにも、自分に合った道具を使うことが重要です。たまにしか使用しないからと、サイズが合っていないものを無理に使用したり、場合によってはサイズがあっていないことに気が付かないこともあります。

サイズの合わない道具を使用すると、苦痛によるやる気の欠如、無理をすることで事故につながりますので、指導者だけでスカウトへの指導が難しい場合には、スキー指導員等へ協力依頼をすることも視野に入れておきましょう。

また、スカウト年代は突然、体調を崩したり熱を出したりすることがあります。コロナ禍で、活動場所近くの病院や、救急病院の受け入れ状況が異なることが考えられます。事前に宿泊施設に確認し、事故が発生した場合の指導者の動きと、雪道での搬送手段をきちんと確認するようにしてください。

## Q

**久しぶりに活動するスカウトや初めて体験するスカウトに対して、配慮する点がありますか？**

無理のない活動内容や時間配分で計画をお願いします。あれもこれも欲張ったプログラムは、スカウトによっては無理をさせることにつながります。雪の上を歩くだけでも転倒しけがをすることがある中で、慣れない状況では、より一層「骨折」「捻挫」のリスクが高まります。「楽しかったけど、もっといろいろなことをしたかった」というイメージでプログラムの確認をお願いします。

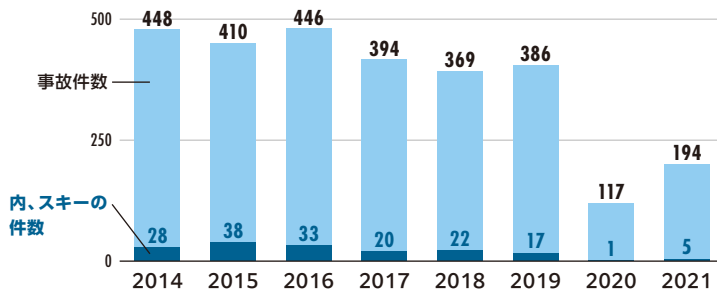
また、風雪など天候によっては、予想より体力を消耗し

ますので、寒さを凌げるスペースで休憩することが望ましいです。スキー場など公共の場では、占有できるスペースを確保する事が難しく、共有スペースを朝から晩まで占有されている方を見かけることがあります。教育の一環として、活動しているスカウトが思いやりのある行動を身につけるためにも、そのような場所を占有することがないように、小集団ごとに昼食や休憩時間をずらすなど、事前の下見などで細かくチェックをして計画しましょう。

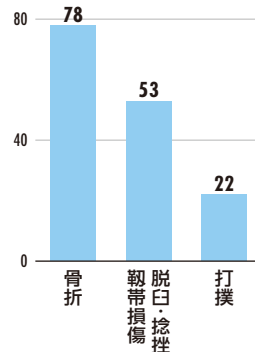
## 過去事例

過去10年間の統計によると、総事故件数に占めるスキー事故数はそこまで多くないものの、他の事故に比べてスカウトのけがの割合が高いという傾向が見られます。一方で、重度のけがが多いのは指導者というのもわかっています。雪の活動に慣れていないスカウトや指導者も多いため、より一層の配慮が求められます。

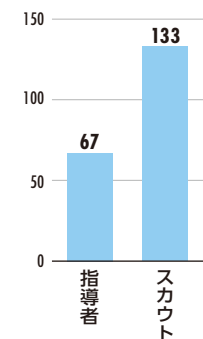
■ 事故申請件数



■ スキーにおけるけがTOP3



■ けが人の内訳



## 冬の活動に関連したチャレンジ章と技能章



スキー選手



アイススケート選手



安全章



スキー章



スケート章

活動を行う前に、スカウトと一緒に安全対策の策定をお願いします。スカウトの安全意識の向上につながるともに、年代に応じて、「気づき」を得る場になるはずで、これからも安全に活動を行い、スカウトが「活動は楽しかったよ」と、元気に帰宅するように活動を進めてください。

## 油断しないで！ 自転車で加害事故を起こしてしまったら…

コロナ禍で活動が制限されていますが、少しずつリアルな活動を再開できるようになってきました。サイクリング活動、あるいは自宅と活動場所との往復で、自転車に乗る機会も増えてきたのではないのでしょうか。

自転車に乗っていると、転倒したり、自動車に接触するなどして、運転者自身がケガをしてしまうことがあります。逆に他の方をケガさせたり、物を破損してしまうこともあります。楽しいスカウト活動を実施するには、自分だけでなく他の方にとっても安全であることが必要不可欠です。

**Q** 自転車で加害事故を起こした場合、まず何をしなければならぬのでしょうか？

**A** ケガをした被害者を見ると、動揺してしまうこともあると思いますが、まずは冷静になりましょう。  
真っ先にすべきことは、被害者の救護活動と謝罪です。被害者の状態によっては119番通報します。また、警察への報告

義務がありますので、110番通報します。  
救護義務を怠って現場から離れるとひき逃げになります。このようなことは絶対に避けてください。また、急に飛び出してきたなど、被害者に落ち度がある場合も同様です。

**Q** 自転車で加害事故を起こした場合、どのような責任を負うのでしょうか？

**A** 刑事事件としては、過失致死傷罪、重過失致死傷罪などの責任を負うことがあります。ひき逃げをした場合には、ひき逃げについても責任を負うことがあります。  
民事事件としては、被害者に治療費や慰謝料などの損害が生じれば、損害賠償責任を負うことになります。最近では、裁判上、高校生が警察官と衝突し最終的に死亡させた事案で約9,300万円、小学生が歩行中の高齢の女性と衝突し重症を負わせた事案で約9,500万円、高校生が自転車を運転していた男性と衝突し重症を負わせた事案で約9,200万円の損害賠償

責任が認められました。大人ではなくまだ成長期にあるスカウト年代による運転でも、大きな事故に発展し得ることにご注意ください。

なお、スカウト活動中の事故については、賠償責任保険によって団や指導者の過失に基づく損害賠償責任が填補されることになります。もっとも、例えば、往復途上の事故に起因する損害については補償の対象にならない、対人賠償の補償額（支払限度額）は1人あたり1億円まで、などとされており、保険に加入していても責任がすべて填補されない可能性があります。

**Q** そもそも自転車で加害事故を起こさないようにするために、どうすればよいのでしょうか？

**A** 事前の計画（明るい時間帯か、見通しの良いルートか、余裕を持った行程かなど）、自転車の点検（ブレーキはよく効くか、車体に損傷はないか、ベルはよく鳴るか、ライトは明るく点灯するかなど）、運転方法（道路交通法

を守っているか、スピードを落として走行しているかなど）といった点について注意して、安全運転に対する意識を日頃から高く持つことが大切です。

### 過去事例

賠償責任保険の過去の統計によると、自転車による加害事故については、歩行者と接触してケガをさせたケース、運転中の自転車に接触して運転者にケガをさせたり自転車を破損させたりしたケース、自動車に接触して自動車を破損させたケースなどが見られます。

### チャレンジ章



自転車博士

### 技能章



安全章



救急章



自転車章

自転車は、自動車やバイクほどの大きさはなく、大人だけでなく子どもであっても、また免許がなくても乗ることができるため、加害事故を起こしてしまうということについて、つい油断しがちです。

しかし、自転車であっても加害事故を起こしてしまった場合には、上記の通り取り返しのつかない結果を生じさせ、重大な責任を負う可能性があります。また、自分自身にケガがなかったとしても、他の方をケガさせたり、物を破損させてしまったりしたとすれば、楽しいスカウト活動が台無しです。自転車は、スカウトも指導者も運転する機会の多い乗り物です。常日頃から安全運転を心がけてください。また、本稿に関連して、この機会にぜひ「安全ハンドブック」を参照して、自転車運転に対する理解を深めてください。

賠償責任については下記をご覧ください。

[https://www.scout.or.jp/member/wp/wp-content/uploads/2018/12/2023\\_tebiki.pdf](https://www.scout.or.jp/member/wp/wp-content/uploads/2018/12/2023_tebiki.pdf)

## 安全な自転車利用のために……

「自転車の安全利用の促進について」（令和4年11月1日、中央交通安全対策会議交通対策本部決定）において、「自転車安全利用五則」が、次のとおり改定されています。自転車は、道路交通法上の「軽車両」となり、車の「仲間」になります。したがって、車と同じように自転車を運転する人が守らなければならない交通ルールがあります。



**Q 「自転車安全利用五則」は、どのような内容ですか？**

**A** 基本的な五則は、

- ① 車道が原則、左側を通行 歩道は例外、歩行者を優先
- ② 交差点では信号と一時停止を守って、安全運転
- ③ 夜間はライトを点灯
- ④ 飲酒運転は禁止
- ⑤ ヘルメットを着用

内閣府ホームページ【内閣府交通安全対策担当（交通安全教育教材）ホームページ】<https://www8.cao.go.jp/koutu/kyouiku/index.html> をご参照ください。

**Q 自転車に乗る前の点検・整備のポイントは？**

**A** 点検・整備のポイントは、ボーイスカウト安全ハンドブックに掲載されています。合言葉は「ぶたはしゃべる」です。

- ぶ ブレーキ ブレーキはよく効くか？
- た タイヤ タイヤに適度な空気が入っているか？
- は 反射材 反射材は光をよく反射するか？
- しゃ 車体 車体（フレーム）に損傷はないか？
- べる ベル ベルやブザーは鳴るか？

### 最近の自転車事故の事例

最近の実際の事例としましては、スカウトが自宅から自転車で活動へ向かう途中で、信号の無い交差点で自動車と接触する事故がありました。フロントガラスに打ちつけられ、大きく飛ばされた結果、身体の随所を打撲し通院することになりました。通院期間は一週間にも満たなかったのですが、後遺障害が認められ後遺障害共済金が支払われています。

自転車を利用した活動も次第に増えるかと思われませんが、最近の自転車事故の事例からすれば、交差点での一時停止やヘルメットの着用といったルールが守られていれば、事故を未然に防いだり、被害の軽減を図ることができたかもしれません。

その他、スマホを使用しながら運転する等の危険な「ながら運転」をしないこと、「自転車損害賠償責任保険（自転車保険）」への加入をすること等も必要です。

以上を念頭に置き、くれぐれも安全運転に務めて、スカウト活動を楽しんでください。



チャレンジ章  
自転車博士



技能章  
自転車章



# 野外活動のための 安心・安全講座 2022年発行版

## SCOUTING

スカウティング誌掲載記事  
[2022年5月号～2023年3月号 抜粋]

---

令和5年6月20日

発行  公益財団法人  
**ボーイスカウト日本連盟**

〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3

電話: 03-6913-6262(代表) ファックス: 03-6913-6263

e-mail: [program@scout.or.jp](mailto:program@scout.or.jp)

---